

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 「人文学の幅広い教養」と専門的知識のバランスの良い習得を向上させる。	→複数分野専攻制 (Multidisciplinary Studies : MDS) および文学内副専攻の履修者数および修了者数	B	B			
2. 学位授与の基準を向上させる。	→文学部GPA分布	D	D			
3. 卒業生の進路決定率を上げる。	→本学キャリアセンターによる進路調査データにおける就職決定率、大学院進学率	C	C			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) MDSについては、2008年度履修者22名(うち修了者7名)、2009年度39名(同12名)と毎年上昇傾向にあったが、2010年度は32名(同7名)と履修者、修了者ともに下がってしまった。文学部内副専攻も、2008年度履修者134名(うち修了者87名)、2009年度128名(同79名)、2010年度110名(同75名)と下降傾向に歯止めがかからなかった。
★小項目6.4.2	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。 (説明) 4年生全員の卒業時における「平均学年GPA」と見てみると、2008年度は2.26、2009年度は2.16、2010年度は2.14と年々低下する傾向にある。進路決定率については更なる経済状況の悪化のためであろうと思われるが、進学も就職もしない割合が高くなっている。(2008年度10.9%、2009年度17.3%、2010年度20.5%)
その他	

《評価指標データ》

各学部における学生の進路状況
 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
 KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
 3年卒業の適用者数
 ジョイント・ディグリーの授与者数
 標準修業年限未満の修了者の数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	MDSや文学部内副専攻の履修者数及び修了者数。
★小項目6.4.2	GPAの低下。進路決定率の低下。
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	2つの制度内容について学生に改めて周知するとともに、そのメリットについても過去の修了者の意見、感想などを在学生に伝える方策を考える。
★小項目6.4.2	ディプロマポリシー(現在作成中)を教員・学生ともに周知させることにより、個々の単位習得、および学位取得の基準や意義を明確にする。
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他(自由記述)	昨年度の報告で、目標3の「進路決定率」はここでの指標としてふさわしくない。卒業論文の単位取得に基準の適性化のような目標を立てるべきというコメントがなされたが、これまでこれに関する具体的な歩みはない。2の学位授与の基準向上に口頭試問のあり方なども含めた卒業論文の基準の明確化をはかりたい。
------------	---

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

- 昨年度からあまり進捗していないとの率直な自己評価ですが、実効性のある改善方策が望まれます。
- 大項目6の中で、もっとも対応のしにくい中項目ですので、十分な検討・議論と慎重な実施が期待されます。

【学内委員】

- GPAの低下も改善すべきですが、それよりも憂慮されるべきなのは、進路が決まらないままに卒業する学生の急増ではないでしょうか。このことが経済状況に規定されることはあるとしても、そのことだけに還元され得る問題ではないと思います。また、MDSの履修者数の減少について「改善すべき事項」で言及されていますが、この制度自体の再検討も必要ではないですか。
- 各学科のDPをしっかりと検討され、学生に周知することが望まれます。GPA制度の周知は全学的な問題ですが、全教員に周知・理解することが期待されます。進学者を増やすことは難しいですが、関学の独自制度などの説明を学生に十分周知することが望まれます。
- 小項目6.4.1については、MDSや文学部内副専攻の説明だけでなく、これら以外の成果について、要素などを参考にして説明が求められます。
- 小項目6.4.2については、学位授与基準や手続きが適切であるかを聞いていますから、それらについて記述する必要があります。
- GPAの低下傾向、進学も就職もしない割合の増加傾向は大きな問題です。全学的な対応の必要性を感じます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

- ・卒業生の進路決定に関しては文学部だけでは力の及ばない部分があるのではないかと。
- ・文学部内副専攻については、加重負担感を少なくすることが期待されます。
- ・GPA低下の要因の解明は早急にする必要があります。
- ・「進路決定率」はこの項目における目標としては妥当性を欠いている可能性が高いという意見には賛成です。しかし、副専攻の減少、GPA低下は学生の勉学意欲の低下とも関係していると考えられ、「関学ブランド」が欲しい学生が増えている可能性を考える必要があるかもしれません。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.4.1

基盤評価：なし

達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に努めている」

○小項目6.4.2

基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」

達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○6.4.1. および6.4.2. 追加記述 文学部では自専修以外の専修の専門科目を履修しやすいカリキュラムを組んでおり、多くの学生が実際に他専修の科目を履修している。「人文学の幅広い教養」を身につけるといいう教育目標はある程度達成できていると考えられる。また専門的知識の習得という点では、少人数のゼミが3年次から必修となり、ゼミの活動や必修である卒業論文の執筆により量的には担保されている。今後各専修で決まっていた論文審査基準をある程度統一し、学生に周知徹底を図ることにより、質的確保にも努めていく。

★ ○文学部内副専攻について 副専攻の履修者の現象が「過重負担」によるものであるのかを調査する必要がある。昨年の追加記述にもあるが副専攻制を利用しなくても多様な履修が可能であることが原因の可能性もある。1プログラムしか申し込めないため、複数の他専修科目から幅広く学びたい学生のニーズに応えていないことも考えられる。また副専攻科目は1年次から履修できるのにも関わらず、申し込みは3年春学期に限定されていることも理由の一つとも考えられる。学生への制度の周知に加え、利用しやすい制度への改革を考える必要がある。

○GPAについて 低下の原因の調査を行う必要がある。平均GPAの低下の要因は、学生全体の学力の低下ということもあるであろうが、成績下位層の拡大とこの層のさらなる成績低下が考えられる。この場合は成績不振者への面談を行うことにより、学習意欲の向上を計ることが出来るであろう。

○進路決定率の低下について 文学部だけでは力の及ばない部分に関してはキャリアセンターとの連携を強化によって改善を計りたい。